



壬寅
 扇紙草稿

特 別
 A5
 6590
 35



衣更忌小半るふんと持るりよむ乃
我由及しむまの舞舞莫送の友紀昇
生ふ外二三子の後ハ川南さ〜〜
節由奥途中此印と風吟さく



古修後のを此とと出さく山桜
り〜〜る瀏氏をるのこハ曰抱紀昇の
した先記中あまのまうこまハ思ふか
ま悦ハ席の設け茶の壺し

初名、新羅と本原水塔寺
とあり、本名、仁井田濱あり、高
志、たけなほ松のくし、紀千代御経
とあり、て、安ふ、又社、大の神、之を
むし、高岡部、仁井田、大倉、井、村
又社の沖、真、殿、とあり、波、返、の、神、と
あり、あり、せ、て、お、ま、さ、と、高、ひ、と、を
い、ま、い、ひ、よ、て、い、ち、以、ち、り、止、ぬ、小、山、を

行、甘、基、廿、言、廿、薩、の、名、甘、基、也、其、高、山、を
雲、ふ、従、年、由、文、珠、廿、言、廿、薩、言、り、出、現
し、世、人、乃、賦、也、年、一、既、ハ、む、と、を、鐘、乃
高、心、廿、言、廿、言、り、て、高、一、は、ち、よ、い、高、利
と、廿、言、り、高、り、細、川、勝、元、自、学、子、の、割
れ、を、う、後、原、記、草、十、也、生、を、高、り
高、も、も、を、あ、つ、志、く、葉、法、く、り、廿、言、を、記
高、り、吸、以、止、高、言、高、師、の

4. 高橋氏將軍 信評氏地元
高橋氏もや因師を山水の心ゆき
わたりて我々康永の昔はそまふをい
十里の定むかきしきしあふ川を謂
見國は独古水之麻靴堂 湯音洞
稗遠を香海亭 雨多は浪流心夜
白後を洲玄又島是くちハ吸江弁
といふ額ハ足利顯山師の師 守あり

因師浪江境屋持より此地ゆつるふ
て吸江三十首は詠あり持の中ふ
之後何んかふんをとも 吸江の
向ふは山の夕方ゆきふ此
名取を洲中をまふ心夜として空屋あり
あふるも縁の細きあふふし 小てまふ
今此言この言加茂大の社社の御殿に
に 磯よはさりちし 紀氏

